

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載
 【部門区分】第 2 部門第 4 区分
 【発行日】平成 16 年 10 月 28 日 (2004.10.28)

【公開番号】特開 2002-166541 (P2002-166541A)
 【公開日】平成 14 年 6 月 11 日 (2002.6.11)
 【出願番号】特願 2000-364623 (P2000-364623)
 【国際特許分類第 7 版】

B 4 1 J 2/015

B 0 5 B 1/14

【F I】

B 4 1 J 3/04 1 0 3 Z

B 0 5 B 1/14 Z

【手続補正書】

【提出日】平成 15 年 10 月 24 日 (2003.10.24)

【手続補正 1】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0 0 4 4

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0 0 4 4】

この構成によれば、供給路 9 を共通としたので、液滴吐出装置 1 0 1 x 毎にインク 3 0 を供給する必要がなく、一斉に供給可能となる。また、供給路 9 は液滴吐出装置 1 0 2 x が配列する方向に延在しており、インク 3 0 の供給は迅速かつスムーズに行われる。従って空気が存在した状態の供給路 9 にインク 3 0 を充填する際も、容易でかつ気泡が残留することもない。更に構成要素を共用としたので、部品点数が減り、組み立ても簡単になるため、コストを低減できる。

【手続補正 2】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0 0 7 7

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0 0 7 7】

図 1 5 は本実施の形態の変形にかかる液体吐出装置 1 0 8 b の構成を示す断面図である。液体吐出装置 1 0 8 b は液体吐出装置 1 0 8 a の音響伝導体 7 1 とホーン 7 2 とを一体として形成した音響伝導体 7 3 を採用している。流路 3 6 は液体吐出装置 1 0 8 a において連通する供給路 3 9 及び流路 3 8 に相当するが、その径は加振体 1 d 側から開口 3 7 まで等しくしてもよい。あるいは液体吐出装置 1 0 8 a と同様に加振体 1 d 側を開口 3 7 よりも広くしてもよい。その方が流路 3 6 の形成は容易となる。

【手続補正 3】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0 0 8 1

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0 0 8 1】

液体吐出装置 1 0 9 では液体吐出装置 1 0 1 とは異なり、ボディ 8 と音響伝導体 7 4 とはいずれも金属性であり、両者が接触すると外側面 4 を介して音波 2 6 が音響伝導体 7 4 からボディ 8 へと漏洩し易い。そこで本実施の形態では、ボディ 8 は音響伝導体 7 4 と隔離してその周囲に設けられた第 1 部分 8 a と、インク 3 0 を先端 7 4 a へと導き先端 7 4 a

が露出する穴を有する天板 8 b とを有しており、これらはいずれも外側面 4 と非接触に配置されている。当該露出個所においてはインク 30 が漏れないようにシール部材を介在させてもよい。また保持板 17 の開口 15 の径を、インク 30 の液面が保持できる程度の大きさにしておけば、ノズルプレート 14 がなくてもインク滴 31 を吐出することができる。

【手続補正 4】

【補正対象書類名】図面

【補正対象項目名】図 16

【補正方法】変更

【補正の内容】

【図 16】

